



きそむら

社協だより

207号

2022

2月



今月のお便り

【特集】

災害時住民支え合いマップ
見直しアンケート結果の報告

●社協からのお知らせ

- ▶社協会費の御礼とご報告
- ▶無料法律相談所
- ▶ふれあいクッキング
- ▶3月の行事予定

まめのわと満天の星

明日も、きっといい天気！

皆さんは最近、夜空を見上げたことがありますか。2月7日午後8時、木祖村の空には、無数の星が輝いていました。『暗闇の中でのみ、星を見ることができる』という言葉があります。新型コロナウイルスの影響により、私たちの生活は大きく変わってしまいました。この状況を暗闇だとすれば、いましか見えない何かがきっとあるはずです。

コロナ禍の窮屈な日々。心と身体に疲れを感じたら、少しだけ夜空を見上げてみてはいかがでしょうか。

新型コロナウイルスに感染された方への思いやりを！

感染するリスクは誰にでもあり、感染経路も様々です。正しい情報に基づく冷静な行動を心がけましょう。引き続き、人との距離の確保やマスクの着用、手洗い等基本的な感染予防対策の徹底をお願いします。



災害から学ぶ! 未来に活かす!

災害時住民支え合いマップアンケート 結果

木祖村では、平成24年から「災害時住民支え合いマップ」を作成してきました。毎年見直し作業を行い、マップの情報を更新してきましたが、ここ2年間コロナ禍で見直しができていません。一方、近年各地で自然災害が多発しており、マップの重要性は高まっています。

そこで、今年社協では、**令和2年7月豪雨災害**と**令和3年8月豪雨災害**において村民の皆様がとった行動等に関するアンケート調査を実施しました。皆様が災害時の経験から感じた課題等を整理し、マップ作りや防災に関する取組みに反映させることが目的です。本来であれば、村民の皆様全員からご意見をいただきたいところですが、令和2年7月豪雨災害に関しては自治会役員の皆様、令和3年8月豪雨災害に関してはインターネット利用者をそれぞれ対象とさせていただきました。

令和2年
7月豪雨

対象:自治会役員

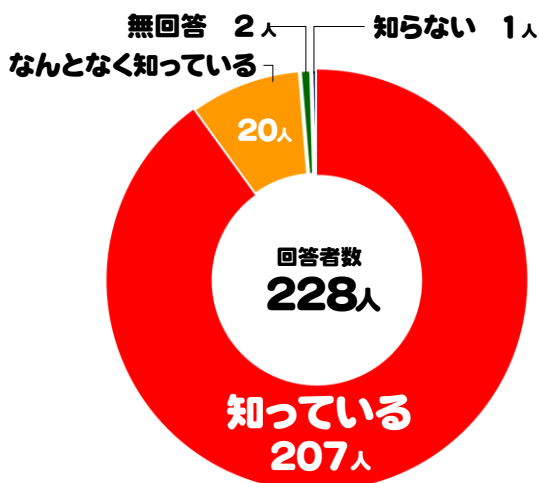
【調査期間】令和3年7月6日～10月31日

【配布数】440人 (20人 × 22自治会)

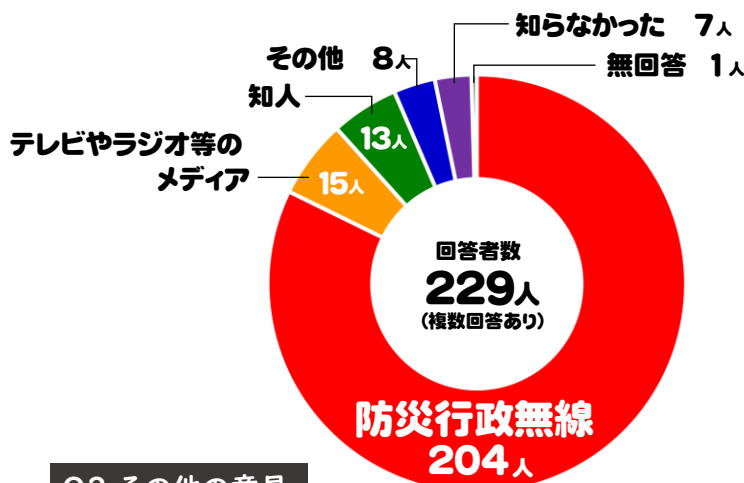
【回答数】230人 (藪原122人 / 菅28人 / 小木曽80人)

★紙面の都合上、自由記述など意見の一部を抜粋させていただいています。

Q1.支え合いマップを知っていますか?



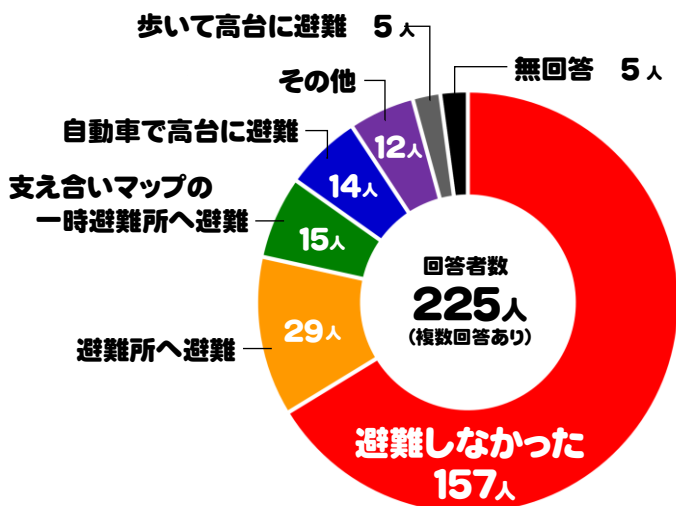
Q2.避難指示の情報を何で知りましたか?



Q2.その他の意見

- ▶家族からの連絡
- ▶インターネット(スマホアプリ)からの通知
- ▶無線・室内受信機が聞こえませんでした。当日、役場に連絡を入れて内

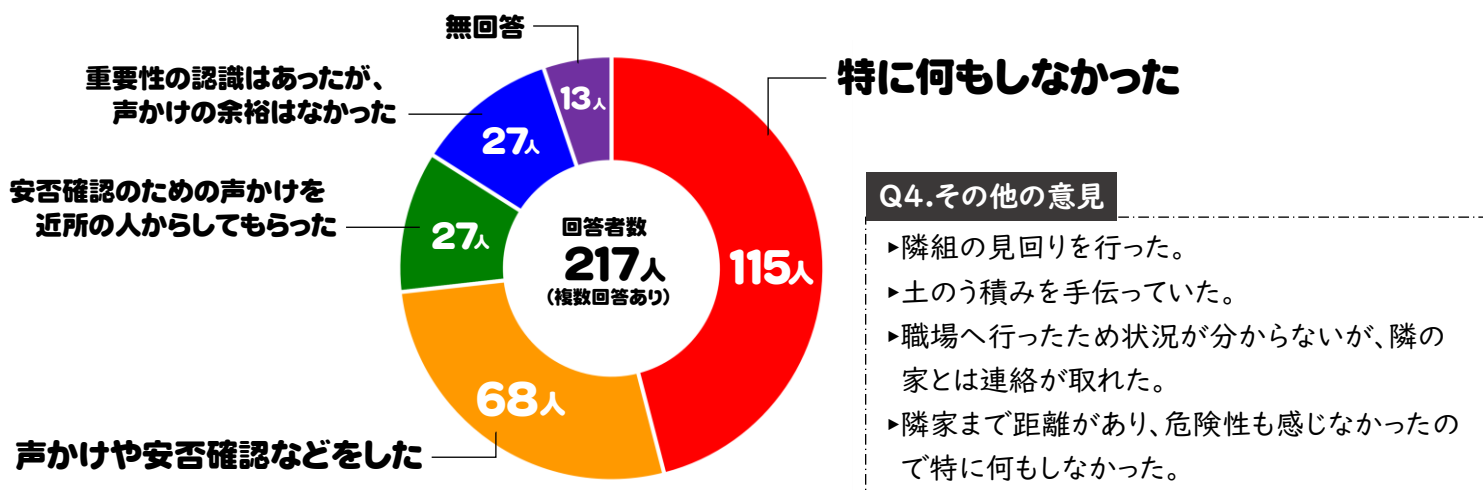
Q3.避難指示発令時に、あなたがとった行動は?



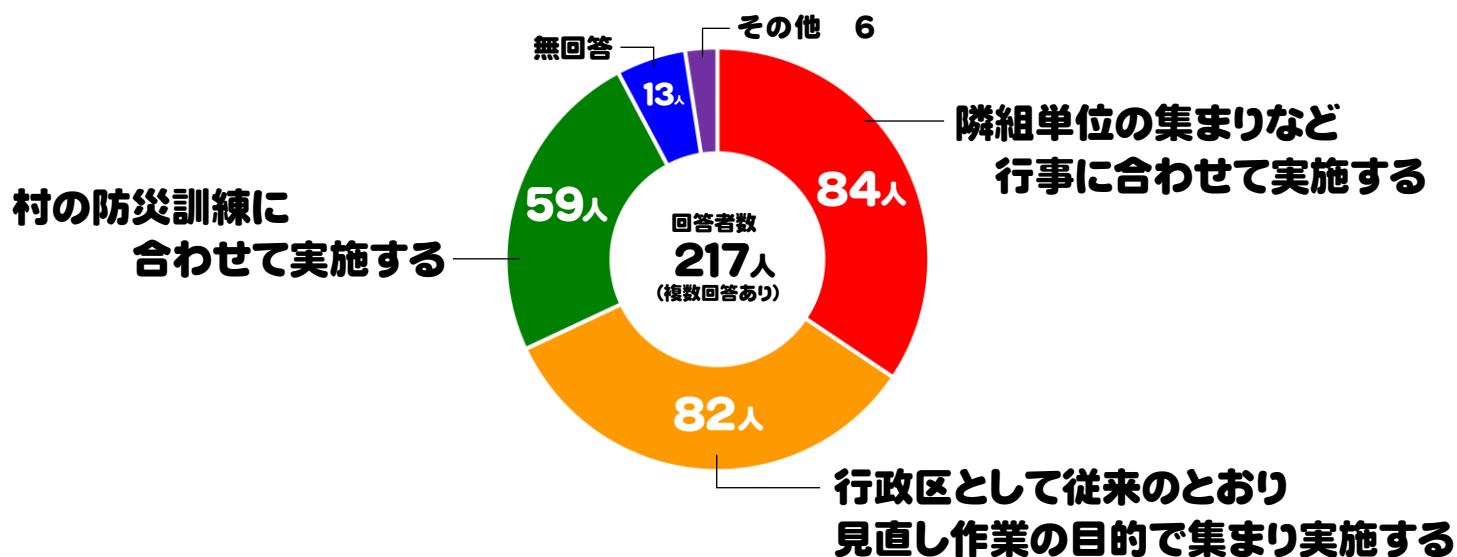
Q3.その他の意見

- ▶川から遠く、高台にある親戚宅に避難した。
- ▶親戚が避難してきた。
- ▶家族は安全な場所へ。自分は自宅の守り。
- ▶家が高台にあり危険を感じなかった。外に出て避難所に行くことの方が危険だと思った。
- ▶自宅の一番高い所(2階)へ移動した。しかし、足・腰の疾患や不調をかかえている家族とお年寄りの方にとってはその行動でさえも大変であると思います。
- ▶万が一の事態を考え、近所で声をかけ合い2階へあがることを確認した。
- ▶隣組地区内の見回りをした。

Q4.避難指示発令時、近所で声のかけ合いや安否確認などを行いましたか？



Q5.「支え合いマップ」の見直し作業は、どのように進めていくのが良いですか？



令和3年8月豪雨(塩沢)

自由記述 1 「支え合いマップ」の他に、地域や隣組で取り組んでいることはありますか？

- ▶日頃の声かけ。危険と感じた時は近所の方に声をかける。
- ▶普段、顔を合わせての言葉の掛け合い。
- ▶隣組会で年に数回集まる。
- ▶避難所への避難が危険な場合の独自の避難可能場所の確認。
- ▶時々しか家に帰らない人達には携帯電話で連絡をするよう承諾してもらっている。
- ▶誰が誰に声をかけるのか担当を決め、全員の電話番号をまとめ、それぞれに配った。
- ▶防災倉庫の備品確認。災害時の非常時グッズの充実。
- ▶水路のそうじ、土砂等の除去、草刈り。



防災倉庫の備蓄確認(5区)

自由記述 2 「支え合いマップ」に関する意見を記入してください。

- ▶例年マップ作りに参加してきたが、出席する隣組の人数がマチマチである。少ない組は1名(組長だけ)、多いところは数名。関心や参加意義が低いと痛感した。
- ▶避難場所の見直しが必要である。地震、土砂災害、河川の氾濫など災害ごとに避難場所が必要ではないか。
- ▶今の避難場所は安全なのか、調べてほしいです。
- ▶水害時には公会所が避難所にはならない。視覚的な指定を。
- ▶マップの避難所は公会所が基本になっているが、水害や河川氾濫時は使用しないことになっている。しかし、昨今の災害は集中豪雨によることが多く、公会所の使用が難しい時に何処へ避難するか決めておく必要があると思う。
- ▶避難経路等、子どもやお年寄りがすぐわかるような表示の工夫(字を大きくする。ひらがな等)が必要。
- ▶現在のマップは地域の状況を静的に表わしたものの。災害の種類、季節、時間などで運用はまったく違うはず。日頃から地震か雨か、どういう状況か想定した訓練によって動けるようにしていきたい。
- ▶マップ作りが目的になっていて、命を守るために何をすべきかわかっていない。
具体例を使っののシミュレーションをしたい。「〇〇川が氾濫したら…」「**沢が切れたら…」など。
- ▶大規模な河川について危険個所を記入しなければ意味がないのではないかな。
- ▶マップが機能するか、防災訓練と合わせてリハーサル等ができるとうい。
- ▶あちこちの小さな沢が崩落・土石流となると逃げ場はない。声かけは大切。
- ▶個々に壁などに貼れるような一目でわかる大きなマップと、携帯できるマップ等があれば万が一の時に良いと思います。
- ▶私の住む地域は行政区の境にあり、その境界がとても入り組んでいる。行政区・隣組単位での支え合いマップ作成より隣近所(実施に隣あっている近所)での支え合いマップを検討してもらいたい。
- ▶ハザードマップと支え合いマップの情報が分かりやすく連携すると良いのでは？
- ▶危険な場所を危険度の高い順にランク分けし、数字で示したらどうですか？
- ▶いざという時に支え合いマップの存在を思い出すことができなかったのて、意識に残るように時々見直し作業は必要ではないかと思ひます。防災行政無線の時に支え合いマップを利用するようにアナウンスがほしい。
- ▶最近災害が多くなり、少しでも早くマップを見直した方が良いと思ひます。



令和3年8月豪雨(左:境峠県道26号 右:菅神出)

令和3年 8月豪雨

対象：インターネット利用者

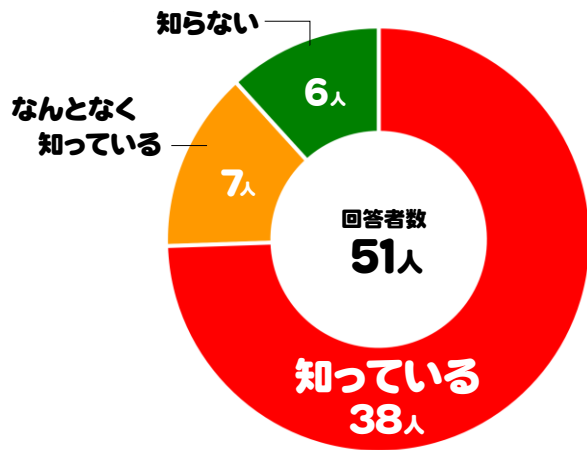
【調査期間】 令和3年8月26日～9月30日

【周知方法】 社協だより、ホームページ、Facebook で発信

【回答数】 51人（藪原28人 / 菅7人 / 小木曽16人）

★紙面の都合上、自由記述など意見の一部を抜粋させていただいています。

Q1. 支え合いマップを知っていますか？

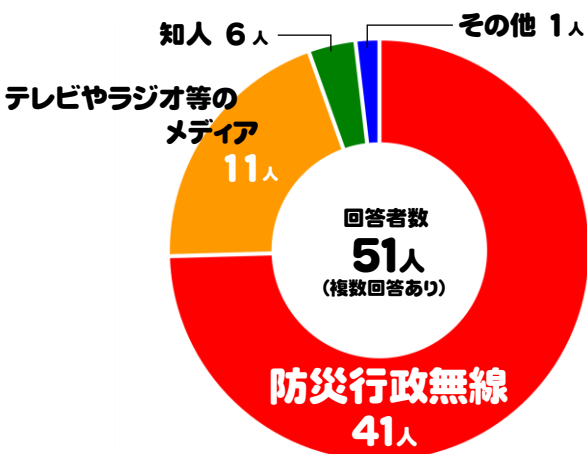


自由記述 1

「支え合いマップ」の他に、 地域や隣組で取り組んでいることはありますか？

- ▶防災倉庫に備蓄する災害用備品の検討。
- ▶消火栓訓練。
- ▶日頃から近所で顔を合わせることが大事。
- ▶回覧板はポストに入れるのではなく、できるだけ手渡しするようにしている。
- ▶LINEを共有している。

Q2. 避難指示の情報を何で知りましたか？



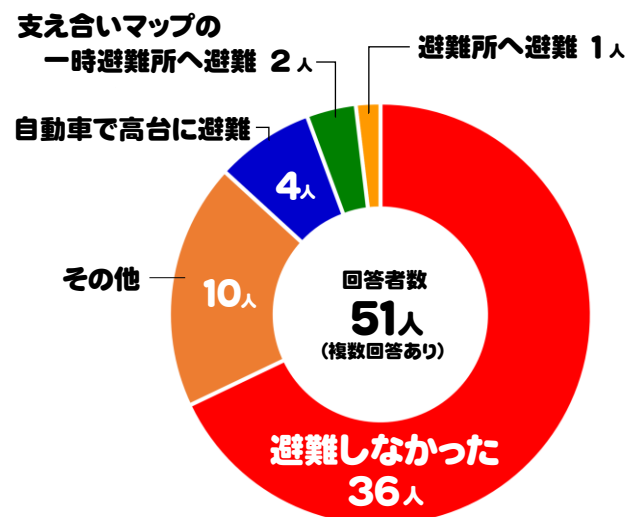
●避難指示で必ず避難！

令和3年5月、避難情報の区分が変更されました。

警戒レベル	避難情報等
5	緊急安全確保 きんきゅうあんぜんかくほ
4	避難指示 ひなんしじ
3	高齢者等避難 こうれいしゃとうひなん
2	大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁)
1	早期注意情報 (気象庁)

※内閣府「新たな避難情報に関するポスター・チラシ」抜粋

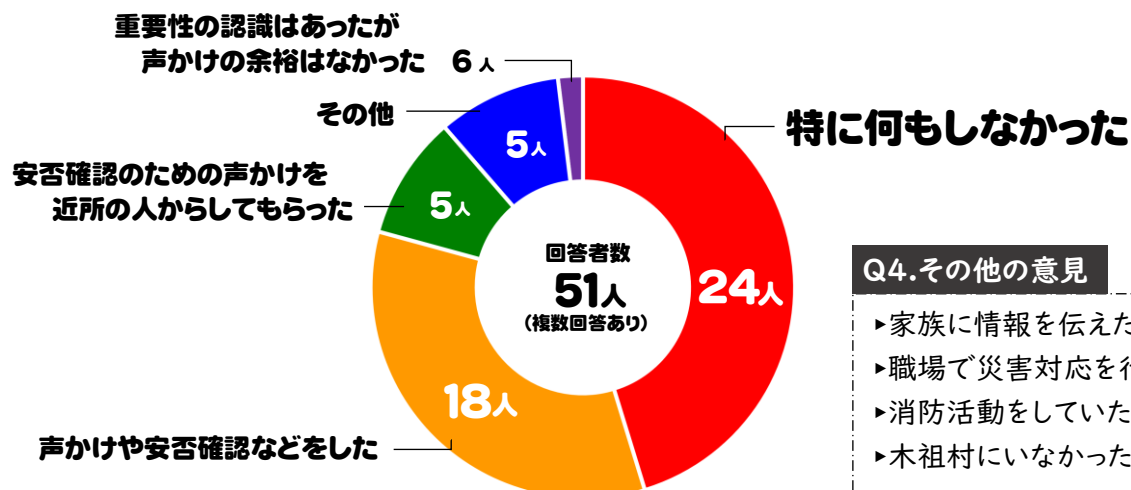
Q3. 避難指示発令時に、あなたがとった行動は？



Q3. その他の意見

- ▶自宅に被害があったため、避難できずにいた。
- ▶自宅の2階に避難した。
- ▶避難区域外の家族の家に避難した。
- ▶避難指示発令時は、木祖村にいなかった。
- ▶安全を確認した後、普段と変わらぬ行動。
- ▶消防活動をしていた。
- ▶仕事で災害や避難対応をしていた。
- ▶避難指示はなかった。

Q4.避難指示発令時、近所で声のかけ合いや安否確認などを行いましたか？



Q5.「支え合いマップ」の見直し作業は、どのように進めていくのが良いですか？

行政区として従来のとおり

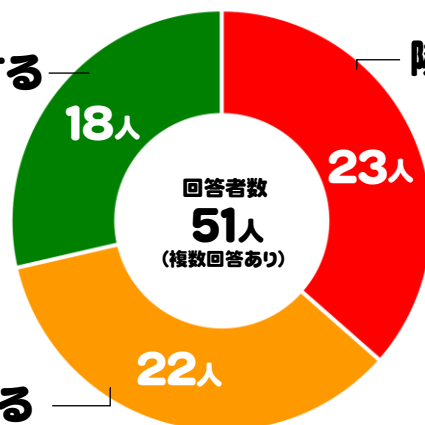
見直し作業の目的で集まり実施する

隣組単位の集まりなど

行事に合わせて実施する

村の防災訓練に

合わせて実施する



自由記述 2 「支え合いマップ」に関するご意見を記入してください。

- ▶水害とそれ以外の災害に分けて避難場所を認識できるようになればと思います。
- ▶マップ上での避難場所の設定だけではなく、安否確認や「隣組長→自治会長→村」など情報伝達の担当や方法も合わせて検討した方がよい。
- ▶マップを作っていることは知っているが、どんなマップで、どう使うか分かりません。活用の仕方や実際に練習してみる機会があるといいと思います。マップを使った避難訓練など。
- ▶(マップ作りに)支援が必要と思われる方が参加しないため、行政による聞き取りが必要だと思う。
- ▶移住や転入出の多い地区(村営住宅など)の若い世代は知らない情報が多いので、ちゃんとしたケアが必要。
- ▶常会で実施していた支え合いマップの見直し作業がコロナ禍で停滞しているため、定期的なマップの現行化は必要だと思います。
- ▶支え合いマップを配布したり、放送でマップの確認を促すなどして存在を思い出させる。
- ▶紙媒体だけでなく、スマホでもすぐ見れるようにするとよい。
- ▶人によって意識の違いがある、と感じました。高齢者で歩行が困難な方から「誰も助けに来てくれなかった」と言われました。避難指示が出た時に、避難のお手伝いが必要な方は自分が避難したいと思ったときに声かけを待ちつつも、自分から手伝ってほしいという意思表示も必要かもと思いました。



- ▶今までに経験したことの無いような被害が村内の至る所で発生し、災害の危険性を身を以て体感しました。
- ▶水路が溢れ床下浸水の危険を感じました。20年に一度くらいのことが2度もあり、短時間豪雨で低い所に一気に水が押し寄せるのが心配。
- ▶ここ数年は大雨による災害が多く発生しております。豪雨災害を想定した隣組単位での訓練が必要ではないでしょうか。隣組での行事の時間が比較的大勢参加されると思います。その様な機会に併せて見直し作業や話し合いができればより良いマップになると思います。
- ▶自宅の周りの確認で、避難をする必要がないと感じたが、災害現場が近くにあつてビックリした。
- ▶自由に動けない年寄りを抱えているので、避難など諦めざるを得ないと感じた。
- ▶災害レベルの豪雨に遭遇することはめったになく、自分が何をしたらよいかがいまいち思いつかなかった。避難指示が出た際、行政の広報などで支えあいマップの話し合いを活かした避難ができるよう、声かけをしてもらえると良いと思いました。
- ▶避難指示が出された地域の独居世帯等が避難対応できたのか、また、マップ通りの支え合い対応できたのか、地域ごとの検証、振り返りが必要だと感じます。
- ▶経過や避難指示などチャンネルのひとつとして SNS も検討してほしい。
- ▶実際に避難できる場所はないと思っている。
- ▶水道水が、濁ってました。飲み水は、確保してましたが、買い足しました。
- ▶早めの避難指示がほしい。
- ▶村の対応は早くてよい。しかし、最後は個々人の判断である。
- ▶避難指示を出すことはなかなか難しいと思いますが、村が早めの避難指示をしたことが良かったと思う。ただ、避難指示もマンネリ化する恐れがあるので、常に住民が危機感を持てる状況を作してほしい。
- ▶避難するための準備ができていないので、今後検討したい。
- ▶近所で声を掛け合いたいと思うけど、どこまでの人に自分が確認をするべきなのか、した方がいいのか分からない。連絡網のような形でおおまかな役割を決めておくこともひとつ大事かと思う。
- ▶声掛けしても避難しない人が多い。コロナの感染リスクを軽んじていると同様、被害に遭わないと変わらない人が多いのが残念。
- ▶家族で話し合い避難をするかどうか考えました。避難した方がいいのかしない方がいいのか、判断がすごく難しかった。いまは何事もなかったのでもいいですが、「避難した方がよかった…」とならないような行動をとれるようにしたいです。
- ▶避難指示が出た時点で家族の中でも避難するかしないかで判断が分かれる。年配の方は「あの時の災害でも大丈夫だったから避難しなくてもいい」と過去の災害と比較して避難の判断をしているように感じた。経験はプラスに働くことも多いが、避難時の遅れにつながることもある。それぞれの避難に関する認識のズレを埋めていく必要があると思う。
- ▶実際に避難指示が出ても避難をためらう住民が多い。組長などが中心となって声かけが重要だと感じた。
- ▶実際に体験しなければやっぱり他人事。困った知人がいれば助け合うこともするけど。ただ 20 時頃の災害無線はすごく切迫した感じが伝わり恐怖を覚えました。
- ▶どれだけ危機が迫っていても、何らかのことが自分に起きないと行動に移すことができない人は少なくないと思う。日頃からの防災意識を高めていく取り組みを継続してやっていくしかない。
- ▶災害にあった場合の備えが出来ていないので今後検討したい。

**社協だよりで掲載できなかったご意見は、
木祖村社協ホームページ または 右の QR コードから見られます！**



自治会役員アンケート インターネットアンケート

アンケートへのご協力ありがとうございました！

今回のアンケートは、支えあいマップの見直しに活かすことが大きな目的でした。しかし、実際に災害の中で皆様を感じたことや気づいたことが、様々な視点からたくさん寄せられました。

災害への備えは「これで大丈夫!」というものではありません。今回のアンケートを地域の防災対策や防災意識の向上にしっかり活かせるよう、社協では村と連携し、今後の支えあいマップ作成事業等に取り組んでいきたいと思っています。

社協からのお知らせ

御礼とご報告

令和3年度 木祖村社協会費について

村民の皆様には、今年度も木祖村社会福祉協議会費へのご協力をいただき、ありがとうございました。引き続き、皆様のご協力とご参加のもと、誰もが安心して生活できる『福祉のむらづくり』の実現を目指してまいります。会費は地域福祉推進のために活用させていただきます。

一般会費	947,000 円
特別会費	121,000 円
総額	1,068,000 円

弁護士さんによる

無料法律相談所の開設!

家族・ご近所

お金の貸し借り

損害賠償

土地・家屋

社会生活における様々な問題について法律の専門家である弁護士さんがその対処方法などを適切にアドバイスしてくれます。

相談を希望される方は、直接会場にお越しください。

【日 時】 3月15日 (火)

受付：午前10時～11時30分

【会 場】 幸せテラスまめのわ 相談室



楽しい! おいしい!

ふれあいクッキング

健康ポイント

1

今年は例年になく寒い日が続きますが、ひと足早く春を感じる食材を使った料理でこちらも身体も元気になりませんか。初めての方も大歓迎ですのでお気軽にご参加ください。

今回のテーマ

春を感じるメニュー

【日 時】 3月23日 (水) 10時～12時

【場 所】 小木曽北部公民館 (18区公所)

【参加費】 300円

【持ち物】 エプロン・三角巾・マスク

健康ポイントカード



★作った料理はお弁当にして持ち帰ります。

参加希望の方は、3月16日(水)までに社協に連絡をお願いします。

2022年

3月の行事予定

1日	(火)	手話サークル
2日	(水)	
3日	(木)	配食 ミニデイサービス
4日	(金)	すずめ塾
5日	(土)	
6日	(日)	
7日	(月)	ミニデイサービス
8日	(火)	手話サークル
9日	(水)	
10日	(木)	配食 ミニデイサービス
11日	(金)	すずめ塾
12日	(土)	
13日	(日)	
14日	(月)	ミニデイサービス
15日	(火)	無料法律相談所 手話サークル
16日	(水)	
17日	(木)	配食 ミニデイサービス
18日	(金)	すずめ塾
19日	(土)	
20日	(日)	
21日	(月)	木祖村住民のつどい
22日	(火)	手話サークル
23日	(水)	ふれあいクッキング
24日	(木)	配食 ミニデイサービス
25日	(金)	すずめ塾
26日	(土)	
27日	(日)	
28日	(月)	ミニデイサービス
29日	(火)	手話サークル
30日	(水)	
31日	(木)	配食 ミニデイサービス

春分の日

日程の変更などにご注意ください!

新型コロナウイルスの感染状況によってサービス内容や行事日程などが変更する場合があります。ご不安な点は木祖村社協までお問合せください。宜しくお願い致します。



編集・発行 社会福祉法人 木祖村社会福祉協議会

〒399-6201 長野県木曽郡木祖村藪原1191番地30 幸せテラスまめのわ内
TEL 0264-36-3441 FAX 0264-36-3482 Mail kisosyakyo@kv.kiso.ne.jp

